KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

「学校に行く」に相当する英語表現について：それらの使い分けを中心にして

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): go to school, leave for school, get to school, off to school, 学校に行く キーワード (En): 作成者: 岡田, 啓 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00006227

関西外国語大学 研究論集 第86号（2007年9月）
Journal of Inquiry and Research, No.86 (September 2007)

「学校に行く」に相当する英語表現について

――それらの使い分けを中心にして――

岡　田　　啓

要　旨

「学校に行く」の英訳は go to school, leave for school, set off to school, get to school など何通りもある。脈絡によって，これらの中の最も適当なものが選択される。換言すれば，特定の脈絡を英語という言語でいかに切り取るのかをわきまえておかねば，正しい英語表現とはならない。上記のフレーズのうちどれを選ぶかはしばしば副詞との共起の中で決定される。その考慮をしない日本人の書く英語が不自然になる一大原因は正にここにある。例えば I go to school on week days. とは言えても，I go to school at 9 o'clock. はかなり曖昧な表現で，きちんとした正確な英語とは言い切れない。日常のカジュアルな表現としては，使用される状況より判断して「学校に向けて家を出るのが9時だ」と解釈できないことはない。しかし，英米のジャーナリスト・作家などは，大抵 I [left for / got to] school at 9 o'clock. のように，出発時を言うのか到着時を言うのかを指定している。この小論では，「学校に行く」という表現がいかなる副詞とどのような結び付きで用いられるのか，またそのとき，どのようなニュアンスで用いられているのかコーパスを用いて探り当て，具体例を挙げて用法を検証する。

キーワード：go to school、leave for school、get to school、off to school、学校に行く

0．はじめに

『英語語法大事典』（1978：483－4）に I go to school at eight. は8時に家をでるのか，それとも8時に学校に着くように家をでるのか，という質問にたいして，次のような誤った解説がある：

「I go to school at eight. をつきつめてみれば ...「8時に学校に着く」となり「8時に家を出る」とはなりません。ただここで問題になるのは，go to school と，やや曖昧な表現を用いていることです。もし「着く」ということをはっきり言いたければ I arrive at school at eight. と言うでしょうし，反対に出かけることを明瞭に言いたいのなら I start for school at eight. というでしょう。... go という動作はまず「出かけて」最後はどこかに

「着く」わけですから go to school のように to で到着点を示しても「出発する」という動作から途中の運動も当然ふくまれているわけです。だから「出発する」か「到着する」か，どちらかになるかと言えば，「到着する」でしょうけれども，そういうことを端的には表していません」

この説明は問題である。実際 go to S［以後 school は S と略記］は「教育を受ける場に行く」という意味で用いるのが一般で，「学校という教育の場に向かって地理的な空間を移動する」場合はきわめて限られる。informants も "go to S at eight" はあまり奨めない。また，たとえそれを用いるにしても「家を出るのが 8 時」としか解せないという。また上の解説の「学校に着く」を arrive at S とする回答も十分とは言えない。get to S の方が適切，いやそれのみが正しい唯一の選択肢となる文脈も多いからだ。

『英語語法大事典第 3 集』（1981：101）に『斎藤英和中辞典』の office，『大和英』の「出勤する」の項目に挙がっている例，I go (down) to (the) office at nine o'clock. についての質問と回答が掲載されている。その中で回答者の三浦は (A) I go to office at nine o'clock. (B) I go to the/my office at nine o'clock. について，(A) は非文であるが (B) は語法上認められるとする。しかしながら，その説明の妥当性はともかく，回答者の例文解釈自体が誤っている。上の文では「9 時」「出勤する」から考えて，三浦は「会社に到着するのが 9 時」と解釈している。しかし実は (B) はそういう意味ではない。"go to S at eight" 同様，あまり良い英語ではない［sloppy］が，それを承知で用いたとしても，「9 時」は家を出る時刻に言及してしまう。ここでは go を get に代え，I get to the/my office at nine o'clock. としなければならないのだ。

『英語語法大事典第 4 集』（1995：167）で河上は Your father went to school to see the principal. において S の無冠詞を誤りとし，正しい例として下の 1)，2) をあげる。しかし，実は全くその逆で，母親が息子に対して，息子の学校の校長に父親が話をしに行ったと伝える場合，無冠詞が正しく，1)，2) こそ誤りなのだ。河上はさらに 3) の Murphy の例を引いている：

1) Your father came to the school to see the principal.

2) Your father went to a/the school to see the principal.

3) Mr Kelly went to the school to meet his daughter's teacher. (He didn't go there as a pupil.)—Raymond Murphy, *English Grammar in Use*

『ジーニアス英和大辞典』も同じ立場をとり，「通例通学以外の目的で学校へ行く場合は the が必要」だとする。だが，この Murphy の解説はコーパスに照らしてみる限り不十分，いや誤りと言ってもよい。実際には，3) で Kelly 氏が娘のことで担任の先生に相談しに行く場合，無冠詞のほうが適切となる文脈も少なくない。the/Ø「Ø は無冠詞］の選択は場合によるのだ。確かに，Murphy の主張するように父親は校長に会いに学校に行ったので，授業を受けに行った訳ではない。それを根拠として彼は one's/the/a などが必要だと論じているのだが，この説

明自体が誤りなのだ。

『英語基本動詞辞典』(1980：656) で小西も，Murphy と同じ Keene の考えを支持し，「建物を問題にする場合は冠詞が必要 [Keene, p.30]：He's gone to the school. 彼は学校へ行った「子供の父親が校長に会いにゆく場合など]」と書いている。確かに校舎を問題にするときは小西の言うとおりである。例えば台風で被害を受けた屋根を修理するために，大工が学校に行くなら，その大工は「その学校か」あるいは「とある学校」に行くのであるから，a/the は当然必要。しかし建物を含めた教育機関としての「学校」という場所に生徒の父兄が子供の相談に訪れるときは the/Ø の両者が可能なのだ。

Keene は確かに 'For example, a child goes to school, but his father would go to the school to see the headmaster or for some other reason.' と書いている。しかし同時にこの記述の直前に，Ø を使う場合の基準を示している：

> One fact of English that can be very puzzling is that nouns which you would expect to have articles often do not.
>
> "He has gone to school." (Why not 'the school'?) ... Why isn't it 'the school'? After all it's a specific school. What is happening here is that the action is such a common one that the verb has, as it were, become involved with the noun that no specification is felt to be required. ...
>
> "Going to school" is that act that millions of children perform everyday [*sic*] for hundreds of years.

Keene のこの指摘は正しい。筆者に言わせれば，このとき S はあたかも固有名詞であるかのように機能する。だからこそ，親が子供のことで相談があったり，子供の学校の文化祭などで子供の通う学校を訪れる時（これも一般的にごく普通に習慣的に生起する状況で Keene の無冠詞の条件にあてはまる）Ø で何ら差支えないのである。親も子も無冠詞の S を親しい「場所」，the を用いて「その」という必要のない場所だと感じている。以下に示す例が正にそれを証明する。Murphy も Keene もコーパスを使えなかったために，母語話者としての直感にのみ頼り，結果として間違ったのだ。たとえ一流の学者の説であろうと直感にのみ頼った説は疑ってかかるべきである。統計的・客観的データによる裏付けのないことは信用してはならない。作家の言語にたいする感性は鋭い。しばしば文法家による不用意な一般的説明をくつがえすのだ。

1．go to school 総論

さて次に，定説をくつがえす例文を挙げる：

(1) My mum went to school to get my results, I could not really face it. I got three Es and I thought I would not get accepted anywhere. I just felt so sick. — *T970814*

(2) When she was a child, it was pointless for her mother to go to school to see Ashly perform in plays or recitals. Few groups bothered with interpreters. Since then, things have improved considerably, she said, with places like Magic Mountain, Universal Studios and Hearst Castle offering tours and special events for the deaf. — *Lat960708*

(3) Her mother came to school to complain to both the teacher and the principal. Yet nothing was done. — *Lat990525*

(1) は母親に学校に成績表を取りに行かれ面目を失った娘の視点で書かれたもので，S はその娘の通う学校。informants によると，この Ø は the で代用できない。(2) は盲目の母親にとって学校に娘 Ashly の劇などを見に行くことは無意味であった，の意。Ø/the いずれも可能だが，ここの Ø は次のような意味合いを持つ。すなわち話し手は子供の立場に立ち，その視点から盲目の母親が学校に行くことは無かった，と言っている。子供に同情的な言い方となっているのだ。the も間違いではないが，その時は，話し手は娘に感情移入することなく，客観的立場からその子供時代を描写することになる。(3) は come to S の例。これも Murphy，Keene，河上，小西らの解説の誤りを証明している。

さてここで come to S と比較することで [go/have been] to S という idiom の特異性を見てみよう。

(4－1) On Friday, Jinny and Mike broke up for the Easter holidays. The last afternoon had been an Open Afternoon when the parents had come to school to see their children's work. — Leitch, Patricia (1976) *A Devil to Ride*, Lions.

(4－2) ... but these children are working class, half of them come from one-parent families and one must not expect too much. They come to school unable to use a knife and fork, so how can you expect them to learn to read? — *Dt930312*

come to S が，go/been to S とは根本的に異なる点がある。それは come to S には「教育の場に空間（地理的または心理的な空間）的移動を経てやって来る」の意しかないことだ。(4－1) は地理的な移動を表す例。(4－2) は心理的（ここでは時間的）な空間移動の例。労働者階級で，特に片親家庭の子供たちは満足にナイフやフォークも使えないほど，しつけというものがなされていないまま就学して来る，との意。いずれも学校側の発言で the は不可。

他方，go/been to S には「空間的な（地理的または心理的な）移動を経て行きつく」の他に，単に「教育を受ける」という特別な慣用がある。I [go to S/study] at ABC High. の go to S は正にその例で「教育を受ける」という意味。study とほぼ同義でそれで置き換えても支障ない。これは，「教育の場」への「移動」はまったく表さない。それ故にこそ，at ABC High と共起

できるのだ。約 1GB のサブ・コーパスで検索したところ，come to + S は学校側の教師などの立場からの発話に現れるが，Ø の例は全出現例573のうち469例（＝81.8％）で，残りが a/the/one's を伴った。一方 go to + S は出現例が遥かに多く，特に Ø の比率が 95.4％（＝3436/3602）と高い。been to + S（271/273）に至ってはØが 99.3％で残りは the が 2 例のみであった。be at S (BrE), be in S (AmE) は単に「在学中・就学中」を意味しうるが，単に「教育を受ける」という意味はなく，そこが go/been to S とは異なる。be at S (BrE), be in S (AmE) には必ず，学校という場を既与のものとするという前提がある。そして，その前提は still, no longer, at ABC High などの副詞を用いるなどの方法によって保証される。この保証の無い脈絡すなわち単に「教育を受ける」の意では go/been to S しか用いられない。

(5－1)　She is at school at ABC High. (BrE)「ABC 高校に在学している」

(5－2)　'You out there alone?'

'I have family, but they come and go. I got a boy in school at SMU.' (AmE) —Harris, Marilyn. (1991) *Lost and Found*. Fontana.

cf. He went to school [at/*in] ABC High. (BrE/AmE)［ABC 高校で教育をうけた］

(5－3)　Our son is [still/no longer] (at/in) school.［まだ在学中／もう社会人だ］(BrE/AmE)

(5－4)　He has never been to/*at/*in school.「学校教育なるものを受けたことがない」

(5－5)　His family was poor and he [never went to school/was never *at/*in school]

(5－6)　"You know, you don't talk like you're uneducated."

"But why should I? I have been to school. I was even going to go on, in school."

"What happened?"

Patrice shrugged. "The Germans came."

"And?"

"I no longer went to school. ..." —Voigt, Cynthia (1985) *The Runner*, Lions.

(5－4), (5－5) は「そもそも教育というものを受けなかった，つまり教育は当事者には存在しなかった」という意味。このとき be at/in S は使えない。逆に (5－6) の been to S では「教育を受けた」。(5－1)－(5－3) のように be at/in S + 学校名や be still at/in S では教育を与える場の存在が予め想定されている。be in/at S 単独で「教育を受ける」の意で用いることはできない。そこで，教育そのものの在る無しをうんぬんする場合は代わりに go to S を用いたのであろう。(5－4), (5－5) のごとく副詞が never の時は教育そのものが存在しないのだ。ところが not の場合は事情が異なってくる。何故か？その訳は not では「就学・在学」を保証しつつ，何かの事情で（ある一定の期間）学校に行かないという意味を取りうるからだ：

(5－7)　It was just my luck that my Dad bumped into Wiggis in the town. Of course Wiggis asked him how I was because I hadn't been at school for so long. —Eldridge, Jim and

Duncan (1987) *Bad Boyes*, Arrow Books.

(5－8)　"Marco, you were dreaming," Mom said..."From your hit on the head. ...You were out cold. It must have given you terrible nightmares."

"You mean I haven't been home?" I cried. "I haven't been in school?" —Stine, R. L. (1997) *I Live in your Basement!* Scholastic Inc.

(5－7) (5－8) はいずれも普段は在学している主人公が一定期間教育を受けなかったのだ。

日本人学習者は大概 go to S に「移動」を読み取る。Where do you go to school? が理解しにくいのも無理もない。例を挙げよう：

(5－9)　My dad, to me, he's like my idol. I mean, he's not smart at all. He never went to school. But he worked every day of his life in the fields to raise our family. — *Lat990817*

(5－9) は教育こそ無いが，働き者の父親を尊敬する息子の介。

コーパスで見る限りにおいては，自分の子供が通っている学校に言及するときは「移動して行きつく場所」として認識する場合であっても Ø で表すことが多い。定冠詞を用いて「その」を明示する脈絡は普通ない。S は話し手にとってごく親しい，当たり前の存在として生活の一部として取り込まれ，ほとんど固有名詞のごとき取り扱いを受け，the は脱落する。それは，郊外に住む人が I'm going to town to do some Christmas shopping. という時の Ø＋town と軌を一にする。この人にとって買い物に行く町と言えば，日常生活の中にあって身近な決まった町であり，定冠詞を冠する必要は感じられない。

まったく同様の論理で，子供のことで父兄が校長に会いに行くという (1)(2) は無冠詞の方がはるかに自然なのだ。the を入れても間違いではないが，それは話し手がその学校の特定性を聞き手に印象づける必要があると判断する脈絡に限られる。このように，Native speaker の学者の説もコーパスに照らしてみると，その妥当性が疑われる場合が少なくない。コーパスを使用せず直感に頼った時代の英米の学者の説は鵜呑みにできない。

それでは逆に the の入る例を見てみよう：

(6－1)　His mother promptly went to the school, saw the Headmaster, and asked him to see that Bob was kept at school during the lunch-hour with the other dinner-children. — Blyton, Enid (1951) *The Six Bad Boys,* Beaver Books.

(6－2)　Then he went into town to buy a first-class stamp and post it. After that he went to the Pizza Parlour, where some youths he knew ribbed him, saying that they had heard his father had been to the school to answer questions about his absence. — Yorke, Margaret (1989) *Crime in Question*, Arrow Books.

(6－1) では息子のボブが学校を抜け出して昼食を食べに行くことがないように監督してくれ，と要請するために母親は学校へ行った。(6－2) では彼が学校を休んだので父親は事情聴取で学

校側に呼出された。それが作者の視点から描かれている。つまり，ここでは作者は読者（聞き手）に対して，主人公「彼」の行く学校を第3者的視点から捉えなおしている。主人公の通う学校はそのような巨視的視点から見れば，他の学校に相対する教育機関として把握する必要がある。それゆえ the を入れてあるのだ。

もう一つ例を挙げておこう：

(6－3) "I'm mad. My adrenaline is flowing," said Pamela Moore, who has an 11-year-old son and a 7-year-old grandson at Cimarron Avenue Elementary School in Hawthorne. An 8-year-old girl was abducted and raped on June 4 when she was walking to the school. "This man is floating round here and nobody is catching him." — *Lat960620*

(6－3) の記事は新聞記者として客観的立場から報道したもの。故に walking to the school と定冠詞が選ばれている。むろん，この the は her に代えても差し支えない。ただ一般読者を聞き手として想定しているので，the の方が適切である。もしも，この記事を読んだ人が友人にこの内容を伝えるとすれば，(According to today's newspaper) An 8-year-old girl was abducted and raped a couple of days ago when she was walking to her school. となる。the に代えて her を使わなくてはならない。the ではどんな学校かが聞き手に対して十分特定できないからだ。さて，それでは無冠詞にしたいときはどうすれば良いか？それは，この女子生徒を，話し手にとって親しい関係に置くのだ。I have a niece who is 8 years old. Just a couple of days ago, she was abducted and raped when she was walking to school! I'm really shocked. とすれば良いのである。

以上から分かるように，家族の間に起こる日常会話において子供の通う学校は，作者という客観的観察者に捉えられる存在ではなく，当事者の視点から把握される親しい存在である。ゆえにその学校は，そこに通う子供の観点から見ても，また父兄の観点から見ても「Ø + S］で指定しうるのだ。

そもそも go to S の意味は「教育を受けに教育の場にゆく」ことであるか，さもなくば，それから「教育の場へ行く」時の「移動」と「場」部分が脱落して単に「教育を受ける」のいずれかである。言い換えれば go to S の S は学校という「建物」でもまた校舎のある「地理的」場所でもなく，学校という「教育機関」あるいは「学校教育」そのものを指す。以下に「学校へ行く」という訳語に相当する様々な表現を比較検討する。

2．School に共起する前置詞，動詞のもつイメージについて

学校に向けて家を出るとき，be off to/leave for/start (off) [to/for]/head (off) [for/to] /go off to/get off to/set off [for/to] /take off for など様々な表現がある。また学校へ着くときには [get

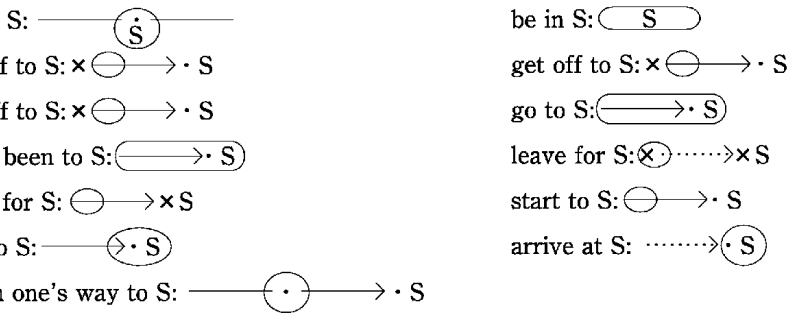
to/arrive at/come to/be at + S] などがある。作家はこれらを巧みに使い分けているが，これらの相違を味わうためには前置詞，副詞 off，動詞のイメージを抑えておく必要がある。

a) to: 目的地への到着が想定されている

b) for: 目的地への方向性が示されるが到着する保証はない

c) at: 他の場所に対して或る地点を指定する

d) in: 一定の境界で仕切られた広がりをもつ空間を指定する。



>・は「目標への行き着き」を，>×は「目標への志向」を，◯は意味的焦点の当たる範囲を表す。———> は実際に想定される移動を，……> は想像上の移動を表す。

3．「学校に行く・つく」各論

(7) go [to/*for] S

上で図解したように go to S は「出発して到着するまでの全景」を指定する。

(7－1)　Back in the 17th century many people never went to school. They were illiterate.

(7－2)　He used to go to school, but quit after two months to help his family to earn more money. — *G960331*

(7－3)　I went a different way to school, avoiding Simone's house. — Harrison, Jane (1993) *Chasing Fame*, Pan Australia.

(7－1) は単に「教育を受ける」の意。「教育の場に行く」から空間移動を取り去ることによって，換言すると，これは矢印を含む空間移動イメージから，具体的な場の移動と具体的目的地を落とすことにより抽出された抽象概念と把握できよう。これに対し (7－2) は「教育を受けるために学校へ通う」の意。心理的移動しか含まないとは言え，具体性をやや多く含むと解することができる。それが，(7－3)「違った道を通って」となる場合はさらに具体性が増し，学校への地理的移動を表す。

(7－4)　Young children are going to school in the morning, many of them zonked out on a very hard kind of cannabis. —*Dt020613*

(7－5) He should not have been in school with my children. I'm really uncomfortable with this ... There are troubled children. I understand that. But I don't want them going to school with my kids. — *Lat980715*

(7－6) Oh this is going to be great. My kids can go to school with me in the morning and we can all come home together in the afternoon. — *Dfp971012*

(7－4) は，年端もいかない生徒の間に，大麻を吸って朝ふらふらしながら学校に通っているものが多い，の意。注意すべきはこの be going to S は現在の一時的習慣に言及しており，学校への途上にあるという意味でないこと。(7－5) の go to S with sb [sb＝somebody] も学習者には要注意。これは「sb と同じ学校に通う」のであって (7－6) のように「一緒に」行くという意味ではない。話し手は問題児のいる学校に自分の子供は通わせたくはない，のだ。

(7－7) I opened my eyes to find four kids from my class laughing and hooting. Enjoying their little joke. Maddy Wiener lives across the street. Marsha James lives two houses down from her. Derek Lee and Henry Glover live in Westwood, but they go/*come to our school. — Stine, R.L. (1998) *Invasion of the Body Squeezers Part 1*, Scholastic Inc.

(7－8) You don't have to come to school. It was just an idea. I want you to meet my friends. — Martin, Ann (1992) *Stacey's Ex-Best Friend*, Scholastic.

(7－7) にあるように [go to + S] は「教育を受ける」という意味で用いられるとき，教育場への移動を含まない。すなわちこの go は方向性を含まない。come と対立する go ではないのだ。故に移動を内包する come で置き換えることはできない。「教育の場へ行く」という「地理的移動」を含む [go to + S] の例としては They went to school the next morning. などがあるが，(7－8) に例示したように [come to + S] にも同じ使い方がある。

(7－9) We have kids in our county that don't even have a classroom when they come to school in August. — *MH960419*

ついでに説明しておくと，(7－9) にあるように come to S には「学校へ上がる・通うようになる」を学校側の立場で言うときにも使用されるが，この時「空間移動」は時間的な移動。

(8) have been to S

これは go to school の完了形で「結果」「経験」とともに「継続」をも表す。

(8－1) It's not your fault you've never been to school, but I know you can't do the sixth-grade work. — Philbrick, Rodman and Lynn Harnett. (1996). *Children of the Wolf*. Scholastic.

(8－2) I had to write down where I'd been to school and so on, what exams I'd passed or failed and what experience I'd had. — Gale, Patrick (1989) *Little Bits of Baby*, Grafton Books.

go to S が完了形で用いられるとき，go を be に代える必要が生じる場合がある。(8－1) はそ

れである。have never/*not been to S という脈絡で「教育を受ける」の意。(8－2) も職業紹介所でどこの学校に行ったかなどをいろいろ詳しく書かされたという場面。やはり gone でなく been が選ばれている。

(8－3)　Has Matthew gone to work? Have the children gone to school? Good. Is this the morning that Mrs Yates comes? — Stubbs, Jean (1989) *Like We Used to Be*, Pan.

しかし (8－3) のように子供が学校へ行ったかどうかを問題にするときは go to S。been to S だと「学校に行って授業を受けて戻ってきた」という意となり，この脈絡では不適。ついでながら，この go to S は「学校を目的地として家を出たかどうか」を問題にする例ではあるが，leave for S に言い換えることはできない。その訳はこうだ。leave for S では「家を出る」こと自体が情報の中心となってしまい，話し手の意図は伝わらない。話し手は go to S を用いることによって，子供がちゃんと勉強するために学校へ行ったかどうかを問題にしているのだ。

(8－4)　I've been spoiled in a sense. ... I've never gone to work: I've always gone to school. And I never had to travel more than three miles to get there. — *Pi930513*

(8－5)　You haven't been to school since Friday. ［この前の金曜から学校に通っていない］

(8－6)　I have never been to school — I've had tutors all my life ... — Arthur, Robert (1972) *The Mystery of the Silver Spider*, Armada.

(8－7)　Now aged 11, Andrew has barely been to school for a year. — *Time010620*

(8－4) では単に「教育を受けた」の意でなく「学校という場に通った」のだ。(8－5) は完了形で学校に行かない状態の「継続」。(8－6) は「経験」の意味で，「私は，他の子供と同じ場所に集まって教育を受けたことはない」と移動の意を含む。(8－7) は単に「教育を受ける」の意と捉えても，「学校という教育の場へ通えなかった」と解釈してもよい。

(9) be at S

Quirk, Randolf, et al. (1985: 677) は，Sid is at school. [1] ; Sid is in school. [2] ; Sid is in the school. [3] の 3 例文を挙げ，"The meaning 'enrolled in' is expressed by [1] in BrE and by [2] in AmE; the meaning 'at the place, not at home' is expressed by [1] or [2] in BrE, and by [1] in AmE; the meaning 'within the building' is expressed by [3] in both BrE and AmE." と解説している。英米で be at/in S の語法が異なるのである。

完了形に関しては面白いことに，コーパスに have never been to S はあるが，have never been at S はない。

(9－1)　As a kindergarten teacher, I am at school by 7:15 a.m., work, usually without a lunch break and ... — *Lat991219*

(9－1) は「定期的に学校に（教師として）移動した結果，その場面にいる」の意。「出勤す

る」と訳すべきである。当事者が学校という「教育場」に通う場合 Ø が原則だが，これは教育を受ける生徒だけでなく，そこへ習慣的に通う従業員，特に教師について言える。英和辞典にその記述がないのは不親切で，教えるために学校に行くばあいも，[go to/be at] S が可能。Ø は S を「習慣的に通う親しい場」と見なすだけだ。

(9－2) The first week at university may be one of the most important in a student's life. Until now you have been at school, surrounded and supported by family and friends. — *T000824*

(9－2) at S は「ここまでの高校までの学校教育」を指し，時間的区分としての大学生活を指す at university と対照されている。

(9－3) Had Alan not been at school with Foxy he'd have presumed he was on the look out for someone particular, someone who was after him. But it was just the way Foxy always moved, — Flemming, David J (1989) *Now Then, Al. Wright, Christine*, William Collins Sons & Co.

(9－4) I've only been at school two weeks, and already I've had a fight with every single teacher. — Quin-Harkin, Janet (1984) *Exchange of Hearts*, Bantam.

(9－5) "... Please tell me all about it [＝our trip]."
I said I would someday, but now I wanted to know all about the girls at school as I was never at school before. Alice was surprised at this but I informed her my mother died when I was young and my father would not part with me, but preferred teaching me himself. — Random House (1968) *The Pearl*, Random House.

(9－6) How do other pupils react to her fame? "Once a kid brought her dad's camera to take pictures. That was a little weird because when I am at school I act like a regular kid. — *Times011221*

(9－3) は「Foxy と同じ学校（の生徒）でなかったならば」，(9－4) は「学校に通い始めて 2 週間で教師と喧嘩した」の意。(9－5) は「学校」という場所に通ったことがない，の意。(9－6) は世間的に名の売れている自分であるが，学校に「来ている」ときには普通の子のように扱われたいと思っている。

(9－7) But Miss Hall ... said she will not treat Oyo differently in future.
'While he is at school, he will be treated as an ordinary child, because that is what school is about,' she said. — *Dt961116*

be at school は結果として授業を受けている場に存在することから，「行っている・来ている」両方の日本語訳が可能。(9－7) は学校に「来ている」間と訳したほうがよい。

(9－8) 'Are you, by any chance, a bit bored?'

'I am a bit,' he confessed. 'I've seen everything I want to see, Iras is at school and Faber's working.' — Gale, Patrick (1989) *Little Bits of Baby*, Grafton Books

(9－8) は退屈していないか，の問いに「そうなんだ。見たいものは全部みてしまったし，Iras は学校に「行った／行ってるし，Faber は仕事している」と答えている。Where is your son Mike? という問いに対して，「学校に行ったよ」に当たる最も自然な英文は He is at school. である。He [went/'s gone] to school は「過去／過去から現在に至る時間枠」に起こる「動作」に焦点が当たり，Where is your son? の直接の答えとして少し不自然なのである。しかし，「家中を探してもいないのだが」という前置きのある文脈では He's left for school. がもっとも適切な選択肢となる。

(9－9)　The couple appealed to the Peking government to allow their 10-year-old son, who is at school in China, to join them in Britain. — *Dt920308*

(9－9) では，彼らは中国政府に今，中国で「就学中」の息子の出国を許可するよう求めたのである。BrE なので at を用いているが，AmE なら in を用いるところである。

(9－10)　cf. They're all right,... The eldest'll be at school soon. Less for Brenda to do. (BrE) — Sillitoe, Alan (1958) *Saturday Night and Sunday Morning*, HarperCollins.

(9－10) は，上の子ももうすぐ学校に上がるので手がかからなくなる，の意。

(10) be in school

(10－1)　What she [=a young professional tennis player] so patently dislikes, is being away playing tournaments at a time when her friends are in school. (BrE) — *Dt920628*

(10－2)　President Clinton is dogged by having avoided Vietnam by being in school at Oxford. (AmE) — *Mh950712*

(10－3)　He was good on offense but did not always try hard on defense. In the summer and fall, he was in school at 7 in the morning, working on his game, trying to get better. — *Lat960130*

(10－1) は BrE で「学校で授業を受けている時」の意。(10－2) は AmE で「Oxford 大学に在籍することによって」の意。しかし (10－3) は特別な例である。ある basketball player についての AmE で「彼は朝 7 時には既に登校している」という意味である。明らかに Quirk, Randolf, et al. の説明に当てはまらない。この in S は実は［3］の in the school と同じ用法なのだ。しかし，ここは彼が熱心に練習に通うという脈絡なので Ø が自然に感じられたのだ。バスケットコートのある学校の体育館が，正に固有名詞化したのである。だが，ここで AmE が通常用いるはずの at S が選ばれていないのには訳がある。at S では普通の授業をうけるために登校していることになり，自主的練習のために登校することにはならないからだ。

(11) leave [for/*to] S

これは，「教育の場に向けて」通常は「ある場所，特に自分の家」を離れる・出発するの意。leave という動詞は厳密には「家」を離れる一瞬に言及する。故に leave は特定地点までの移動を表す to とは共起しえない。家を離れた後の時間帯には言及しえない。そこが start と異なる。

(11－1) I leave for/*to school at 8 o'clock.（家を出るのが 8 時）

(11－2) Everyone got up early and the children left for school on horseback. School was a small clapboard house in the village. — Pizzey, Erin (1978) *Infernal Child*, Futura Publications.

(11－3) Most mornings she had to leave for school while it was still dark in order to attend Deena's special coaching sessions, — Wells, Christie. (1989) *A Class Act*. Troll.

(11－4) Now be sure you watch the clock, ... and leave for school at exactly quarter past eight — Cleary, Beverly. (1968) *Ramona the Pest*. Puffin Books.

(11－5) When Howard and Awful left to go to school, they found they had to do a long jump in order to leave the house. — Jones, Diana Wynne. (1984) *Archer's Goon*. Magnet Books.

(11－2) はある農場で生活を始めた子が農場の生活を記述したもの。朝，農場を離れ学校へ向かう子供の視点からの描写である。(11－3) も子供の視点から描いたもの。「暗いうちに家を離れる」のでやはり leave が用いられる。(11－4) は親が子供に学校へ行くよう指示したもの。leave は家を離れる瞬間にしか言及しえないことから，それにさらに教育場に行き着くという意味を追加したいときは (11－5) のように go to S と組合わせて用いることも多い。(11－5) は工事のため家の前に溝が掘ってあり，それを飛び越えないと家を離れ学校へゆけない，という状況の説明。

(12) start for/to S

「学校に行く」出かけ初めを指定する start は for/to いずれとも共起する。for を取るときには学校という教育の場を目指して移動を始める，という意。それに対して to を選ぶと，教育の場という目的地に着こうと移動を始める，の意。for S は出発時に向かう遠くにある目標として S を意識し，to S は飽くまで S への到着を想い描いている。start は出発およびその直後の動作をいう動詞なので，2 つの違いは微妙になる。だが文学作品の中では脈絡に合うように使い分けられる。

(12－1) I start for school at 8 o'clock.（家を出るのが 8 時）（「学校に向けて出発する」）

(12－2) I start to school at 8 o'clock.（家を出るのが 8 時）（「学校への到着を前提として出発する」）

(12－3) The next morning when Danny finished breakfast and started to school, he was surprised to see Tim waiting for him in the front yard. — Palmer, Bernard. (1989) Danny Orlis *The Showdown*, Tyndale House Publisher.

(12－4) At half past eight when he finished breakfast and started for school, there on the porch would be Genevieve Trueheart waiting for him.
She wants to go to school with you, Tommy, Aunt Prudence always said. — Gollancz, Victor (1960) *Over the Horizon*, New Century Press.

(12－3) では Danny は玄関を開けて，外に飛び出した，つまり，この段階で学校への移動がすでに始まっている。飽くまで学校を目的地として移動し始めた。「教育をうけるために学校に着くべく家を出発する」の意なので to を選んでいる。子供の視点で状況が描写されている。一方 (12－4) では start for が選ばれている。何故か？それは，彼が朝食を済ませた「8時半」が明示されている，聞き手はこの段階で，主人公に同一視しその気持ちで次の動作を予想している。そのすぐ後に「出発する」という動作が続く。この「出発」は「8時半の直後」というイメージが強い。学校はこれから向かう先として主人公の心に導入するほうが自然である。それで for が選ばれている。informants によると (12－4) で to も間違いとは言えないが for の方が脈絡上自然に響くという。(12－3) で to を for に代えても殆ど差は出ない。

これに対して学校へ向かって家を離れること自体に重点があるときは leave for S が最も自然に聞こえる：

(12－5) I'll go back up to my room and get them for you. There's plenty of time. I don't have to leave for school for an hour yet.

(12－5) では start for も可能であるが leave for ほど自然でない。家を離れる時刻が問題となっており，学校への道程に就くことが重要ではないからだ。start to はかなり不自然に響く。

学校への道程が意識されるとき，すなわち到着を期して出発するとの意味合いを含めたいときには leave は用いることはできない。leave は家を離れる瞬間しか意味しえないからだ。つまり leave は短時間であっても移動が含まれる脈絡では用いてはならない。逆に start は移動の道程の初期段階に言及するので使用可：

(12－6) Glancing at her watch, she saw it was only seven-fifteen and even if she walked slowly, it was too early to start for school. — Miner, Jane Claypool (1981) *Dreams Can Come True*, Scholastic Inc.

(12－6) は「学校へ出かけるのには早すぎた」の意である。この文には「たとえゆっくり歩いたとしても」との前提がある。それを聞いた聞き手の心には既に彼女の歩く姿が想い浮かべられている。故にこの脈絡では leave でなく start の方が適切なのだ。また，主人公に感情移入している聞き手は，おそらくまだ家の中にいるであろう主人公を想い描いているはずだ。そ

の点を考慮すれば前置詞は to でなく for が自然である。

(13) get to/*for S

これは学校という教育の場に「物理的・地理的に」到着する，の意。for は原理的に不可。

(13－1) When Alex got to school on Monday morning, Jill was waiting by her locker. "Alex, I've got the best news!" Jill shouted as she came toward her. — Beecham, Jahnna (1988) *The Right Combination*, Bantam.

(13－2) A: "How did you get to school?" B: "On the subway."

(13－3) Look, I've got my essay done. I just can't wait to get to school tomorrow to hand it in.

(13－4) I'm all right now. I just can't wait to get to school tomorrow. I've missed my friends for a whole week!

(13－1) のように「学校へ行き着く」と言う意味で「学校へ行く」と言いたい時は get to が普通。交通手段を問題にする (13－2) は「どういう方法で学校に着いた「行った／来た］の？」の意。get に代えて go も用いることができるが，その場合は特定の日を問題にしていない。「（当時は）習慣的にどういう方法で学校に通ったの？」の意となる。(13－3) の get は go に代えても殆んど同義。ただ get では実際に自分が学校につく具体的移動がイメージされており，早く学校に行きたいという気持ちがよく表現されている。これに対し go では地理的移動のイメージは希薄である。「学校という教育場」にできるだけ早く身をおいて先生に作文を提出したい，という意味になる。(13－4) は病気が治って，明日から学校に行けるようになった子供の介。get に代えて go を用いるのはやや不自然。だが go back to S ならば問題はない。その場合「教育の場に復帰する」を意味する。get to S は文字通り「学校という場所に地理的に行き着く」の意。

(14) arrive at S

(14－1) My bus comes at 6 a.m. I [arrive at/get to/reach] school at 8:00 a.m.「学校に到着するのが 8 時］

(14－2) He kept out of their way for three days. He was careful not to [arrive at/*get to/be at] school until just before the bell rang, avoided the cloakroom unless there were other boys there, — Bawden, Nina (1979) *The Robbers*, Puffin.

(14－3) I was in such a hurry to [get to/?arrive at] school this morning, I forgot to make a lunch. — Woodruff, Marian (1982) *It Must Be Magic,* Bantam.「急いで学校に来ようとした］

(14－4) He didn't call, but the next morning when I [got to/arrived at] school, Mark was waiting by my locker. My heart started beating a mile a minute when I saw him. —

Meacham, Margaret (1983) *Love in Focus*, Tempo Books.

(14－5) I estimate I'll arrive at school fifteen to twenty minutes after rollcall. This means I'll have to sign the late list. — Deery, Eamonn (1995) *Getting Back at Christine*, Starlight Books.

ここで at S は，学校という場所を他の場所に対して相対的に定義・言及したものだ。話し手は客観的視点から自分の学校への到着を描写している。arrive には（仕方なく／自然に目的地に）着いてしまうという意味合いが強くなる傾向がある。この点が get to と大きく異なる。get to S にはそもそも S を目的地としてわざわざ選定しているというニュアンス強いので，意図的動作を表すのに向いているが，arrive at は意図せずとも結果として学校に着くという場面を伝えるのに適す。(14－1) (14－2) は「arrive という状況が起こる場所が他の場所でなく学校である」と述べている。(14－2) では，主人公は学校に来たくない。だから get to は使えないのだ。ちなみに be at は可能。(14－3) は当然 get to の方が自然だ。もちろん get to S も (14－4) のように意図的動作であることに焦点づけがなされず，単に結果として「学校に着く」の例もある。しかしながら元々学校へ行き着こうという意図は在ったのだ。つまり get to S は (14－3) に例示されるように，学校に行き着こうという「意志」の存在が前提とされている。親しく場面に関与するのは登場人物であるが，話し手はその登場人物の視点からズームインして場面を描いているのだ。

対照的に，(14－5) の arrive at S では，主人公は淡々とした調子で予想される遅刻に言及している。困った，というニュアンスはない。主人公が自分の経験を語るときであっても，客観的な立場から過去を振り返るというスタンスとなる：

(14－6) When I arrived at school the next morning, guess who I saw first. You're right. Tasha. — Stine, R.L. (1996) *Calling All Creeps!* Scholastic Inc.

(14－7) When we arrived at school, the party was just beginning. I was trembling from the cold and from excitement too. Would Yuri ask me to dance with him? — Hautzig, Esther. (1968) *The Endless Steppe*. Peacock Books.

上の例の比較から分かるように，arrive at を用いるときには単に学校という場所に他の場所から移ったという結果が重要である。が，そこへの移動は考慮されない。これに対して，get to においては，学校に着く直前の主人公の動きが主人公または，主人公と同じ場に視点をもつ報告者の目から描写される。(14－4) は，好きな Mark が自分をロッカーのところで待ち受けていたので，心臓がどきどきし始めた女の子の視点からの描写。つまり，学校へ着く直前から学校へ着いてからある程度の時間が経過するまで，主人公の目を借りて場面が描き出されている。このことから考えると，ここはやはり arrive at より get to の方が優れた選択肢と言えよう。(14－6) では単に自分という人間が（他の場所から移動して）学校に着いたときに起こ

った過去の事実を現在時点で報告しているに過ぎない。(14－7) も，単に私たちが学校に着いたとき，パーティーはちょうど始まりかけていた，ということを客観的視点から報じているのみ。言うまでもないが (14－6)(14－7) とも arrive at を get to で代用できる。

(15) [be/go/get] off [to/*for] S

(15－1) KING: Hardest habit to change, they say, in radio is the morning man.
GIBSON: Yes. And I think it's true in television as well, because you live your life habitually in the morning. You do everything at the same time. You go to the same part of the icebox, you shave at the same time, the kids are off to school at the same time, and you tend to turn on the same television show at the same time. — *CNN020618*

(15－2) On Tuesday morning Matthew went off to school to start his new term. On Tuesday afternoon he returned home, with a black eye.— Wyndham, John (1968) *Chocky*, Penguin.

(15－3) Mum had taken to sitting in the front room at breakfast time, staring out of the window through the nets into the life outside in the street. Sometimes, when I went in there to say good morning or to tell her I'd be off to school, there was a blanket and a pillow on the sofa. — Jacobs, Barbara (1988) *Stick,* Corgi.

(15－4) Every morning the children telephoned her before they went off to school, to encourage and support her, ... Every evening she telephoned them, spoke to each child in turn — Lessing, Doris (1965) *A Man and Two Women*, Paladin.

(15－5) I'll ring them at work and say I'll be late in. You get off to school. — Oldfield, Pamela (1993) *The Haunting of Wayne Brigs and other Spinechilling Stories*, Lions.

(15－6) Your mother let you sleep this morning. But you look all right now, so you can get off to school. — Llewellyn, Sam (1989) *Pig in the Middle*, Walker Books.

be off to は次の go off to S「家を出て学校に向かう」と意味的にとても近い。しかしながら，(15－1) の be を go に代えることはできない。習慣的に「学校に着こうと家を離れて動く状況に入る」のが off to S で，それ以外の意味の追加は不必要だからである。もし go を用いた場合その基本的意味，つまり「(意識の中心から離れるように) 動く」の意味が付加されるので不都合なのだ。(15－2) は話し手である作者が客観的視点から Matthew が家から離れるように動くのを描写する。意識の中心は主人公の家に置かれ，そこから遠ざかるように移動するのを報じているのだ。(15－3) は今，家にいる自分が祖母に向かって「僕は学校に行くよ」と伝えるのである。off すれば，自然に遠ざかるので go は不要。「遠ざかる」の意の go を加えると冗長。(15－4) は子供達は母親を気遣って学校に行く前に電話する，の意。「授業を受けることを

目的に家を離れ，遠ざかるように動く」という映像を表す。故に go は必要なのだ。(15－5)(15－6) は「お前は学校に出発しなさい」という命令文。get off は「off の状態つまり出発している状態に入れ・出発せよ」の意。親にとっては子供が出発すれば良いのである。それで get「～の状態に入る」と組合わさっている。go「家を離れて移動する」との組合わせでは焦点が外れ，親の意図は伝わらない。go つまり「遠ざかるように移動する」は不要部分なのだ。なお，[be/get/go] off for S「学校に向けて家を出る」の形は存在せず，代わりに [set/make/start/take] off for S などを用いる。

(16) be on [one's/the] way [to/* for] S

(16－1)　Their friends were on the way to school and she and Zac weren't even out of bed yet! — Moore, Elaine (1992) *Sarah with an H,* Scholastic Inc.

(16－2)　Meanwhile the sun had risen higher and it was time for me to be on my way to school. I closed the wooden door behind me and put the padlock in position. — Seuberlich, Hertha (1962) *Candle in the Wind*, Scholastic.

(16－1) は文字通りには「学校へ行く道筋の途上にあった」という意。「道筋」は学校まで通じており，必ず to を用いる。for は「到着目標」に言及し「到着地点」を表すことができないので the/one's way for S は不可。(16－2) は「そのような状態に入る」，つまり「学校に向けて出発する」の意。

この他にも「学校へ行く」に対応する英語表現としては [head (off)/set off/start (off)] [to/for] S などがあり，それぞれ微妙な差がある。off がある場合と無い場合との相違，また out を off に代えたときの文脈の違いなど興味深い点が多いのだが，ここでは紙面がないので取り扱わない。

4．結語

『英語語法大事典』のシリーズは『英語教育』「Question Box」欄で取り扱った英語語法についての解説をまとめたものである。主として中高で教鞭をとる教員が困ったとき質問し，語法に詳しい専門家がそれに回答したものである。語法の解説はきわめて困難で，文法的理解の上に慣用を熟知していなければならない。これらの回答はコーパスのない時代に書かれたものが多く，9割以上は十分な大きさのコーパスに照らして再検討し書き換える必要がある。(筆者が用いたコーパスもテキストファイルで8 GB，The British National Corpus の約14倍の大きさである)。本稿で明らかにしたように，それらの回答には多くの間違い・誤解が含まれている。また間違いでなくとも，回答として不十分で質問者に不満の残るものが大半である。無論，回答者は最善を尽くしており，当時としては仕方のないことである。しかし誰でも Inter-

net で世界中のホームページの内容が検索できる今日にあっては，やはり時代遅れの感をぬぐえない。質問者は，回答の不備を突く例を簡単に集めることができるからである。現在の「Question Box」欄も旧態依然であまり変わっていないという感じを受けるのは筆者だけであろうか？もはや，英米の権威のある学者の見解であっても疑ってかかるべき時代なのである。native speakers の意見であっても，多くは当てにならない。コーパスに照らしてみて，正しいと証明されない限り信用して受け容れてはならないのだ。語法研究もデータによる客観的証明が必要な science の一分野となったのだ。

使用コーパス

私的コーパスおよび英米の新聞記事

英米の新聞は次のように略記した：

CNN: CNN の Larry King Live; *Dfp*: *The Detroit Free Press*; *Dt: The Daily Telegraph*

G: The Guardian; *Mh: The Miami Herald*; *Pi: The Philadelphia Inquirer; T: The Times and the Sunday Times*; *Lat: The Los Angeles Times; Time: Time (magazine)*

例えば *T970814* は *The Times* 1997年8月14日の記事，*Lat000612* は *The Los Angeles Times* 2000年6月12日の記事をさす。なお，この莫大な量のコーパスの検索に用いたのは TXTANA (v.2.53) というコンコーダンサーソフト。http://www.biwa.ne.jp/~aka-san/ から入手可能。

参照文献

石橋幸太郎，他.（1978）『英語語法大事典』大修館.

Heason, J.B. & J. P Stocks. (1966) *Oversea's Student's Companion to English Studies*. Longman.

Keene, Dennis & 松浪有（1969）『英語の問題点：英語の感覚』研究社.

小西友七（編）（1980）『英語基本動詞辞典』研究社.

小西友七・南出康世（編）（2001）『ジーニアス英和大辞典』大修館.

Quirk, Randolf, S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.

斎藤秀三郎（1936）『斎藤英和中辞典』岩波書店.

——　（1978）『斎藤英和大辞典』日英社.

渡辺登士，他.　（1976）『続・英語語法大事典』大修館.

——　（1981）『英語語法大事典第3集』大修館.

——　（1995）『英語語法大事典第4集』大修館.

（おかだ・あきら　外国語学部教授）